

忙しいが充実していた1年間

——平成元年度学生相談室活動報告——

総合科学部 岩村 聡

平成元年度、学生相談室では、一般学生が来談しやすい雰囲気にするねらいや、チューター機能のサポートの目的などから、新年度の履修相談にそなえて、学務委員の先生方数人と相談室長とに1日相談員を依頼し、宣伝も若干強化した。

その結果、新入生の履修計画等に関する相談が急増し、4月12日には、来談者が1日だけで124名という記録的な数字となった。この日のピーク時には、受付待合室には1日相談員の一人ないし二人の先生に詰めてもらい、第1面接室には徳田相談員が、第2面接室には私が待機して、一対一の場面を作らなくてもよい相談に対しては、それぞれが数人から十数人の来談学生に取り囲まれながら相談ののる、という状況であった。

一方9月末には、二人の専任相談員のうちの一人、徳田完二教官が転出することになり、年度末まで半年間は専任相談員は一人の体制となった。このうち11月から2月までは、内外の関係者の努力で週1日4時間ずつ、臨時相談員の助っ人にきてもらうことが可能になった。が、それでも、相談員の手不足は補いきれず、相談申込に応じきれないことも何度かあった。その結果、統計上の来談者数は、とくにのべ数で減少した。

この間私は、継続中の定期クライアントと、新規来談、それに予定していた行事や、二人で分担していた事務などが集中し、殺人的な忙しさが続いた。予約のクライアントが急に休むと、「いのちの恩人！」と拝みたくなるほどであった。

1. カウンセリング

この年度の個人相談来談者は、実数で416名、のべ数で907名（日、回）であった。前年度と比べて、実数は11%増加、のべ数は8%減少している。再来談・定期来談ケースの減少の傾向が、さらに続いている。

来談者実数の男女別、学年別、学部別内訳は、表1のとおりである。

表1 男女別、学年別、学部別来談者実数

	平成元年度	昭和63年度
計	416名	376名
男	276	283
女	139	93
1年	313	243
2年	42	56
3年以上	45	44
院 生 等	16	33
総合科学部	23	21
文 学 部	29	21
教 育 学 部	55	39
学校教育学部	35	16
法 学 部	33	20
法学部第二部	8	12
経 済 学 部	28	19
経済学部第二部	8	7
理 学 部	43	44
医 学 部	12	21
歯 学 部	4	16
工 学 部	105	88
生物生産学部	16	19
院 生 等	17	33

男女別では、前年度と比べて、男子学生がわずかに減少し、女子が大幅に増加している。原因はわからない。学年別では1年生の増加と、院生等の減少が目立つ。1年生の増加は、前述の履修相談急増の影響であろう。学部別では、学校教育学部、法学部などの増加と、歯学部、医学部などの減少が著しい。

相談内容別実数とのべ数は、表2のとおりである。

表2 相談内容別来談者実数及びのべ(日)数

	平成元年度	昭和63年度
計	416名(907日)	376名(987日)
修学・進路関係	371(565)	291(405)
進路関係小計	100(195)	150(208)
就職	3(3)	12(20)
進学	1(1)	4(5)
留学・旅行	5(5)	3(4)
休学・退学	3(4)	3(4)
転科・転学部	38(63)	47(71)
再受験	23(35)	48(56)
留年	2(10)	2(5)
その他の進路	25(74)	31(43)
勉学・研究	258(323)	127(166)
課外活動	4(11)	7(10)
その他	9(36)	7(21)
心理・適応関係	39(336)	72(550)
心理障害	21(237)	42(410)
対人関係	8(39)	13(24)
自己探求	10(60)	17(116)
その他	0(0)	0(0)
その他	6(6)	13(32)
経済生活	0(0)	3(4)
その他	6(6)	10(28)

修学進路関係の相談が増加し、心理適応関係の相談が激減している。これは、前述のとおり、新入生履修相談へのこ入れと、相談員転出の影響であろう。さらに、修学進路関係の中では、「勉学・研究」が倍増し、「再受験」が急減。「転科・転学部」も、「転学部困難の時代」と報告した前年度よりも、さらに

減少している。

来談者のべ数の月別内訳は、表3のとおりである。

表3 来談月別来談者のべ(日)数

		平成元年度	昭和63年度
計		907日	987日
4	月	351	264
5	月	78	83
6	月	73	101
7	月	47	43
8	月	17	18
9	月	56	80
10	月	80	93
11	月	42	64
12	月	53	54
1	月	46	69
2	月	39	77
3	月	25	41

新入生履修相談急増の影響を受けて4月は大幅に増加したが、他の月はおおむね横ばい、または減少している。

この年度、私が継続的に援助した学生の中には、いろいろな人がいた。

入試のとき体調をくずしたため不本意な学部に入學し、再受験を決意して受験勉強を続け、無事目標の学部に入學した学生。この人とは、体調をくずした精神的原因の解決のため、回を重ねて面接した。子どもの頃から対人関係が苦手で、就職が難関だった学生。この人はずいぶん苦勞したあげく、よい職を見つけて卒業して行った。精神障害のため勉強に専念できなかったにもかかわらず、治療を受けることに強い抵抗があり、私達の長期間の説得がやっと実って、入院治療を始めた学生。ノイローゼのため若い年月を不満足に過ごし、私達の援助で大学での勉強もようやく軌道に乗りかけてきた矢先、事故死してしまった学生。人一倍の年月をかけて大学をやっと卒業したが、就職恐怖のため自宅に閉じ込められている卒業生。この人とは、定期的な長距離電話で相談を続けている。不登校な

ど長い苦しみの時期を経て、少しずつ勉強やアルバイトへの意欲が沸き、この年はようやく芽が出てきた感じの学生、などなど。

援助する立場としては、悲喜こもごもだが、他の援助的職業と比べれば、若くて才能のある人達相手の職場でもあり、専門性も認められているため勉強もじゅうぶんできて、クライアントの問題克服や、治療や、成長や、喜びの姿を見ることの多い、恵まれた仕事だと思ふ。そして、私自身、かけだしの頃と比べれば、経験もかなり積んできたためか、仕事の上での失敗や後悔も少なくなり、困難な問題に当面している学生でも、いったん引き受けたら、よい手ごたえや「実り」を得ることが多くなった気がするこのごろである。

学生相談室は、広島大学の学生の相談なら、なんでも受けつける。

勉強のしかた、成績不振、不登校、留年、休学、教員などの資格のとり方、留学、クラブ活動、宗教団体とのトラブル。進路変更、転科・転学部(この種の相談は、1月にはラッシュになるので早めに!)、大学再受験、就職、大学院進学、友達づくり、対人関係、先輩や教師とのトラブル。失恋、性格、自己開発、不安、劣等感、性的な悩み、いじめ、迫害。経済生活、契約販売やローンのトラブル。交通事故、大学への苦情、などなど……。 (そして、相談室だけで解決しきれない問題は、どこへ相談したらいいかをいっしょに考える。)

カウンセラーとの相談の特色は、まず、一対一で必要なだけたっぷり時間をかけて、必要なら回を重ねて、相談にのってもらえること。また、相談の秘密が守られること。さらに、アドバイスの押しつけがないこと、などである。

あなたも、いつでも気軽に学生相談室を訪ねてください。

また、不登校、ノイローゼ、留年など、指導困難な学生をかかえてお困りの先生方。どうぞご遠慮なく、学生相談室へご相談くださ

い。

なお、学生相談室は、総合科学部プレハブ3号棟(大講義室前)2階にある(電話082-241-1221, 内線3857)。開室時間はいちおう午前9時から午後5時まで(土曜日は12時30分まで)だが、この時間帯に来室できない人のためには、事前に連絡さえあれば、できるだけ希望の時間に相談に応じている。



2. エンカウンター・グループ

この年度、学生相談室のエンカウンター(出会い)・グループ活動は、以下のような状況であった。

「オープン・フライデー」は、平成元年度中には28回開催した。参加者は実数で20名。うち、学部生は13、院生等6、教職員1。のべ数179名。平均6名。前年度と比べて、やや増加している。

「オープン・フライデー」は、授業期間中毎週金曜日午後5時から6時30分まで、学生相談室で開いている、話しあいの会である。1984年の発足。自由であたたかく、真剣な話しあいをめざしている。会員制をとらず、都合のいいときに(時間の途中からでも)自由に参加できる。話しあいは、参加者のうちの誰かが最近のできごとや、生活や、当面している問題などを話し、みんながそれに感想を述べたりする。会費200円でお茶やコーヒーやお菓子が出る。月1回は、パースデー・ケーキを用意して、その月生まれのメンバーのお祝いもする。また、土曜友の会と合同で、春は山菜とりのピクニック、夏はビア・ガーデンのパー

ティー、年末は忘年会、学年末には送別会を兼ねたパーティーなどもおこなっている。



ピクニック

あなたも、気が向いたときに参加してみませんか？

「土曜友の会」は、この年度12回開催した。参加者は実数で27名。うち、広大学生6、教職員2、卒業生7、その他12。のべ数106。平均9名。前年度と比べて、やや減少している。

「土曜友の会」は、月1回土曜日午後2時30分から5時30分まで、学生相談室で開いている、話しあいの会である。1975年の発足。もうすぐ15周年を迎える長寿命の会である。オープン・フライデーとの違いは、広大学生のほか、卒業生や、他大学学生や、社会人にも開放していること。会費はやはり200円。今後の開催予定日は、6月2日、7月7日、8月4日、9月1日などである。

第14回（合宿）「エンカウンター・グループ」は、3月中旬、3泊4日の日程で、西条研修センターで開催した。参加者は11名。学生7名のほか、石川隆義（歯学部）、一円禎紀（保健管理センター）、学外から山崎恭子（広島修道大学）の方々、それに筆者岩村が参加した。会費10,000円。4日間は、ゆったりと楽しい雰囲気の中で、互いに自分の歩みを話したり、感想をいいあったりした。ゲームや、トランプや、卓球や、ピア・パーティーや、クイズなども楽しんだ。参加者の中にジョークのうまい人もいて、たびたび笑いころげたりした。

Aさん「喧嘩はした方がよい。より仲良くなれるから」。Bさん「そんなのは喧嘩ではない。喧嘩はとことんやらつけるものだ」。Cさん「ケンカいの相違ですね」、などといった調子であった。

参加者からの反応も大変好評であった。閉会時の感想文は、「広大フォーラム」への掲載の了解も得られたので、一部を紹介したい。

『来てよかったなと思っています。この会にくる前は不安と期待があった。来てみると、なんかほんわかしたあたたかい雰囲気、自分がとけこみやすかったと思う。それから、自分が多くの人の前で話しをすることに対して、すべての人が真剣に耳を傾けてくれて聞いてくれることが、なんか嬉しかったし、話しができたことも嬉しかった。それと、いろいろな人がいろいろな人生を歩んできて、いろいろな苦労があって、いろいろな見方をしているんだなど、実際に感じたことがよかったと思う。今までは、考えとしては、いろいろな人がいていろいろ考えているということが、頭でわかっているけど、その考え方を聞く機会がなかったように思えた。』

『何もわからずに参加したのではあったが、参加してみて本当によかったと思う。自分のような人間の話しを聞いてくれて笑ってくれる人がいて、とても嬉しかった。みんなそれぞれの問題を解決しようとして努力していることがわかった。沈黙の良さがわかったことも大きな収穫だった。』

『充実感のあるグループだった。個人的には、自分の過去のしんどかった時代と、いまやっていること、やろうとしていることに関して、多くの時間をいただいて、気持ちよく話すことができた。話しながら、また、それを熱心に聞いていただいて、意見を聞かせていただきながら、自分の中で整理されていなかったことが、まとまりをもって考えられるようになったし、いま、自分がやっていること、やろうとしていることを、再確認することができた。』

『羽をのばせた3泊4日であった。まわり

に邪魔されることなく自分のことを考えることができたと思う。10人の人と一緒にいたのだけれど、かかわりを持ちながら独りでいることができたと思う。これからまた日常へ戻るが、「自分でやろう」という気が起きてきた。」

「終始楽しくおだやかに過ごせたのが、非常によかったと思う。最初はできるだけ自分の話しはすまいと思っていたが、後半になって、ついに話してしまった。これもエンカウンター・グループの魔力なのであろうか。」

「楽しく楽な会だった。広大学生相談室にふさわしい、学生の1年間、4年間のまとめ、くぎりの会。ファミリー、アット・ホームな会だった。みんな満足を表明してくれた。メンバー、スタッフに恵まれた。むつかしくなりそうな人も、うまく受け入れられてよかった。かなり率直、受容的、ソフト、マイルド、ゆっくりした雰囲気、連帯化したグループだった。」(スタッフ)

「ゆったりとした時間を過ごすことができ、心身共にリフレッシュした感がある。日常ではあまりふれることのできない、人の部分(もの見方、感じ方)に多く出会うことができた。人にかかわっていく事の難しさを改めて

知らされた思いもある。これからも、エンカウンター・グループを自分の活力の源としてゆきたい。」(スタッフ)

「あなたも、次回はぜひ参加して見ませんか？」

土曜友の会主催の第12回「エンカウンター・グループ」は、8月下旬、やはり3泊4日の日程で、大野町でおこなった。参加者は22名。前年度よりふえた。この会も、アット・ホームなよい会だった。このように、私達のエンカウンター・グループは、さらに完成度を高めてきた感がある。私は、このときのグループを素材として、「あたたかいグループへのファシリテーション」と題するレポートをまとめ、学生相談室活動報告書に載せた。

今年のこの会も、8月24日(金)～27日(月)、大野町の国民宿舎宮浜グリーンロッジで開催する。世話人は、野島一彦(福岡大学)、大島啓利(国立療養所鳥取病院)、大中章(長尾病院)、それに筆者岩村、ほか若干名。参加費は、学生32,000円、一般37,000円。申込締切は8月11日(土)である。関心のある人は、学生相談室まで問いあわせていただきたい。

